



修復された和中庵

京都・東山 近江商人(藤井彦四郎)邸

「和中庵」見学と 琵琶湖の水が流れる 「哲学の道」界隈の散策

参加者募集

第40回なるほど講座は、昭和の豪商、五個荘出身の近江商人藤井彦四郎が、京都東山・鹿ヶ谷に建築した「和中庵」を見学し、近江商人の生活文化について学ぶと共に、琵琶湖の水が流れる「哲学の道」界隈を散策し、近江商人が住まいとしたこの地域の歴史、文化にふれるツアーを開催いたします。

- 開催日時 平成28年 4月17日(日) 10:00～17:00頃まで
- 集合場所 京阪三条駅 高山彦九郎像まえ
- スケジュール 銀閣寺(慈照寺) → お米司ふみやにて昼食 → 法然院 → 和中庵にてお話及び見学
→ 若王子神社 → 南禅寺(水路閣) → 疏水船たまり → 日向大神宮見学 → 蹴上駅
※全行程徒歩で移動します
- 参加費 5,000円 当日、現金でお持ちください
- 申込締切 4月10日(日) 到着分まで(定員30名・先着順)
※申込み「確認書」の送付をもって受付とします。確認書が届かないときはご連絡ください。
なお、4月15日以降に参加を取りやめる方はキャンセル料が発生しますのでご注意ください。
- 主催 NPO 法人^{さんぽう}三方よし研究所
お問い合わせ先：滋賀県彦根市鳥居本町658 電話 0749-22-9854
担当者 鈴木 090-1910-9490

参加申込書

通し番号	お名前	住所	携帯電話番号
1		〒	
2		〒	
3		〒	
4		〒	
確認書送付先	郵送宛先、ファクス番号、またはメールアドレスを必ずご記入ください。		

●参加申し込みいただいた方には後日申込み受理通知をお送りします。通知が届かない方はお問い合わせください。

参加申込書送付先:FAX 077-583-9492 または メール:info@sanpo-yoshi.net



建設当時の和中庵。左から本館、洋館、客殿

「和中庵」は五個荘出身の近江商人、藤井彦四郎が京都・東山に昭和3年に建築したもので、鹿ヶ谷の山裾を開発した広大な庭園を有する邸宅で、「何事も公平に」という意味を込めて名付けられました。彦四郎は藤井糸店を創業し「スキー毛糸」などの製造販売で財を成した昭和の豪商で、近隣一帯も藤井家が開発し国登録有形文化財の旧藤井繁次郎邸が傍に現存しています。

建物は、1949年（昭和24）にノートルダム教育修道女会が譲り受け、修道院として使っていましたが2007年（平成19）にノートルダム女学院の所有となりました。近年、和洋折衷の美のある邸宅は解体される予定でしたが、この計画は見直され、学校施設として保存活用されることになり、昨年9月に修復を終えました。

今回散策コースの紹介

今回は、銀閣寺参拝後に、「和中庵」でその歴史背景などのお話を聞き、邸宅や庭園を見学します。そして、南禅寺境内を通る水路閣の見学をしながら琵琶湖の水が流れる「哲学の道」界隈を散策する予定です。以下が散策地の紹介です。

①銀閣寺（東山文化発信の場）

足利8代将軍・義政が1482年（文明14）、祖父の義満が建てた北山殿（金閣）にならい、東山に東山殿を営んだ。当時の芸術を結集し、ここから歴史に名をとどめる東山文化を広めた。銀閣は鹿苑寺（金閣）を踏襲して観音寺と呼ばれる。東求堂（国宝）は一層入母屋造り檜皮葺で現存する最古の書院造り。庭園は上段に石組みの庭、下段に池泉回遊式の庭で、西芳寺（苔寺）の庭を模したと伝えられている。現代造形を思わせるような白い砂盛り、波を表現した「銀沙灘」と富士山型の「向月台」がある。

②哲学の道（琵琶湖疏水分線沿いの道）

「哲学の道」は若王子神社横から始まり銀閣寺バス停の白川通今出川交差点までの琵琶湖疏水分線に沿った歩道で、京都学派の哲学者 西田幾太郎や田辺元らが散策したため哲学の小径などと呼ばれ1972年（昭和47）地元保存運動を進めるに際し「哲学の道」に決まり、日本の道100選にも選ばれている。「哲学の道」の桜は近くに居を構えた日本画家・橋本関雪と妻よねが1922年（大正11）に京都市に苗木を寄贈したことに始まることから、桜並木は「関雪桜」と呼ばれている。

③南禅寺（京都五山・別格上位の禅寺）

足利義満は禅林名刹の位次を「五山之上」とし、南禅寺には禅宗の寺院中、最高の格式を与えた。勅使門・三門は、藤堂高虎が大坂夏の陣で戦死した将兵の霊を慰めるために寄進したもので、高さ22mの禅宗三門で「玉鳳楼」とも称される。歌舞伎「楼門五三桐」で石川五右衛門が「絶景かな絶景かな」と大見栄を切る舞台でもある。階上は「釈迦三尊像」を中心に「十六羅漢像」などを安置する。盛時は塔頭100に及んだが、「金地院」「南禅寺」「天授庵」ら10余りが現存する。

④日向大神宮（京の伊勢神宮）

天岩戸（あまのいわど）は天照大神が隠れてしまわれた岩屋。その神話の舞台が造られている。神殿は伊勢神宮と同じように内宮と外宮に模して造られ、今は方除けの神さま、縁結びの神さまとして信仰されている。京の人は伊勢神宮参りのとき、この神社を拝してから出掛けたといわれている。「日向」とは太陽で天照大神を表している。